

## ジョガマル池におけるノグサ *Schoenus apogon* Roem. et Schult. の生育状況

茨木 靖<sup>1</sup>・木下 覺<sup>2</sup>・矢野興一<sup>3</sup>・小川 誠<sup>1</sup>

[Yasushi Ibaragi<sup>1</sup>, Satoru Kinoshita<sup>2</sup>, Okihito Yano<sup>3</sup> and Makoto Ogawa<sup>1</sup>: Habitat of *Schoenus apogon* Roem. et Schult. at Jogamaru-ike pond in Tokushima Prefecture]

キーワード：カヤツリグサ科，湿地生植物，絶滅危惧種

ノグサ *Schoenus apogon* Roem. et Schult. は、本州から沖縄、オーストラリア・ニュージーランドに分布するカヤツリグサ科の1年草で、世界にはノグサ属の植物は80種程あるが、日本には本種のみが、本州(宮城県以南)、四国、九州に分布する。湿地周辺のやや乾燥した日当たりの良い裸地に生育していることが多いが、このような立地はやがて安定して植生が回復してしまうと、一年生草本であるノグサは生育が困難になる。このため生育条件を満たすような場所が少なく、またそのような場所は開発や遷移などで環境改変されやすいため各地で減少しているのが現状である。

本種は、その生育地が限られていることや、水環境の変化などで絶滅が懸念され、環境省のレッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (環境省自然保護局野生生物課編, 2007)、徳島県のレッドデータブックでは、絶滅危惧Ⅱ類とされている(徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会 2001)。また、四国の他県においては、香川県では比較的良好な生育地が残されているものの生育数は多くはない(香川県 1983)、また、愛媛県では今治市と吉海町の記録があるのみで、現状は情報不足となっている(松井 2003)。なお、高知県では本種の採集された記録はない。

阿部(1990)によると、徳島県内のノグサの産地は、脇町小星池、阿波町土柱、阿波町正広薬師池、板野町ジョガマル池、鳴門市大麻町桧および島田島とされる。また、この他に、徳島県立博物館(TKPM)所蔵の標本では、上板町泉谷池、大麻町板東、撫養町鳴門高校裏、撫養町木津中山の標本も所蔵されている。しかし、これまでの調

査から、大半の生育地では、人為的環境の改変、自然遷移、そしてイノシシによる攪乱などでノグサは消滅しており、徳島県内で2013年現在生育が確認されているのは、板野町のジョガマル池のみである。

徳島県立博物館では、2011年から2012年にかけて、課題調査「徳島県の湿地生植物」として県内の湿生植物調査を行ってきた。今回その補足調査として、ノグサの現在の生育状況について調査を行ったところ、極めて危機的な状況であったので記録に留め、保護の参考とした。

### 生育地の現状

以下では、板野郡板野町のジョガマル池におけるノグサの生育地の現在の生育地の状況と標本からの情報を合わせて記録する。

ジョガマル池は、徳島県の北部に位置し、板野町の標高200m 足らずの山の中腹部の130mの窪地に位置している。歴史は古く、四国でも最も古い池とされ、湖底からは1000年にわたる堆積物が報告されている(多田ら 2004)。現在はため池として利用されているが、ジュンサイ群落が広がり、スプタ、シズイなどの稀少な水草や水生昆虫が見られるので、環境省の日本の重要湿地500の登録湿地となっている。このようにジョガマル池は豊かな自然環境を残した県内でも重要な池である。

本池の調査は、2013年6月6日に行った。調査地は、池の北端に位置する路傍である。現地は、「四国の道」として整備されており、生育地周辺には、掲示板、休憩所、

2013年11月28日受付, 12月20日受理.

<sup>1</sup> 徳島県立博物館. 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Tokushima 770-8070, Japan.

<sup>2</sup> 〒771-0372 北灘町栗田字西傍字 139. Nishihouji 139, Awata, Kitanada-cho, Naruto-city, Tokushima 771-0372, Japan.

<sup>3</sup> 岡山理科大学, 〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1. Okayama University of Science, Ridai-cho 1-1, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama 700-0005, Japan.



Fig. 1. Habitat of *Schoenus apogon* around Jyogamaru-ike pond in Itano-cho, Itano-gun, Tokushima.

木製階段などがある (Fig. 1)。今回、ノグサが見られたのは、この路上の長さ 10m ほどの極めて限られた範囲で、この部分のみ林冠が開け、日当たりが確保されていた。さらに、この地は、降雨後は、山からの緩やかな水の浸み出しがあると思われ、日当たりと湿めり気といったノグサにとって必要な生育環境が整っている。ノグサの個体数は、出穂しているものを計数したところ、11 株が見られたのみで、未出穂の個体は、付近に見い出されなかったことから、個体数は、極めて少ないものと思われる (Fig. 2, 3)。なお、他県でノグサの多く見られる環境として池の周辺の推移帯が知られるが、本池の推移帯においてはノグサの個体は全く確認できなかった。

ノグサの生育地は、日当たりの良い山裾などで、水がわずかに浸み出すような環境を好んで生えることが知られている。ノグサの生育は、道路工事の以前からも記録がなされていることから、おそらく、このような環境に生えていたが、道路の整備などで環境が改変しているものと思われる。本種の外見は小型で大きな花を着けることもないことから、稀少種と気づかれぬまま諸開発の犠牲になる事態が懸念される。生育の予想される場所においては、工事に先立つ詳細な生物相調査が欠かせないだ

ろう。

以上、徳島県内でのノグサの生育状況を報告してきたが、上述のように、ジョガマル池におけるノグサの現状は、極めて厳しいと言わざるを得ない。今後、生育地周辺に樹木が生い茂ったり、山裾から浸み出す水の量が減少すれば、生育地自体が消滅する可能性が高い。本種は、種子による繁殖の力が強いことが知られており、環境を整えば個体数を回復する可能性も高い。また、本種の保全には、適度な日照と湧水の維持が欠かせないため、保全に当たっては、この点に注意する必要がある。

標本：徳島県阿波郡阿波町正広(阿部近一 42578, 42581, BSP-218844, 218850, TKPM)；徳島県阿波郡阿波町正広薬師池(阿部近一 14467, 14468, 20825, 20826, May 05, 1963, BSP-002270, 210284, 218848, 218849, 218851, TKPM)；阿波町土柱(阿部近一 23434, 23435, 23436, BSP-210282, 218843, 218845, TKPM)；土柱(伊延敏行 Jun. 03, 1966, BSP-002268, 002272, 002275, TKPM)；板野郡上板町泉谷池畔(阿部近一 20828-20830, BSP-218853, 218854, 210285, TKPM)；板野郡板野町ジョガマル池(阿部近一 63335, 63336, BSP-219258, 219259



Fig. 2. Habit of *Schoenus apogon*.

TKPM) ; ジョガマル池池北 (赤澤時之 87-A-165, 87-A-170, BSP-141068, 141069 TKPM) ; 美馬郡脇町小星池 (阿部近一 20827, 42579, 42580, Apr. 29, 1963, BSP-002271, 210283, 218846, 218847 TKPM) ; 美馬郡脇町小星池の上 (木村晴夫 Apr. 29, 1963, BSP-002269 TKPM) ; 鳴門市大麻町桧 (阿部近一 23437, BSP-218852, TKPM) ; 阿波脇町小星 (木村晴夫 no. 20, KPM-8594, KPM) ; 鳴門市大麻町板東 (加藤芳一 Jun. 01, 1981, BSP-002121, TKPM) ; 鳴門市島田島 (阿部近一 23508, 23509, BSP-210281, 218842, TKPM) ; 鳴門市撫養町鳴門高校裏 (高藤茂 0834, BSP-039361, TKPM) ; 鳴門市撫養町木津中山 (赤澤時之 9474, BSP-134671, TKPM) ; 阿州城山 (木村晴夫 no. 2, TI) ; Awa wakimachi (木村晴夫 Apr. 29, 1963, KPM-8595, KPM)

謝辞 : 香川県在住の久米修氏には, 香川県内のノグサの

生育状況について, 貴重な情報をいただいた。池田博准教授 (東京大学植物標本室 : TI) と勝山輝男氏 (神奈川県立生命の星・地球博物館 : KPM) には標本閲覧の便宜をはかっていただいた。ここに記して謝意を表します。

## 引用文献

- 阿部近一. 1990. 『徳島県植物誌』。教育出版センター, 徳島。
- 香川県. 1983. 香川県植物誌 (単子葉・裸子). 香川県環境保健部環境自然保護課, 高松。
- 環境省自然保護局野生生物課 (編). 2007. レッドリスト (植物 I) 維管束植物 (URL : [http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=9947&hou\\_id=8648](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=9947&hou_id=8648))
- 松井宏光. 2003. 高等植物. 愛媛県貴重野生動植物検討委員会編. 愛媛県レッドデータブック - 愛媛県の



Fig. 3. Inflorescence of *Schoenus apogon*.

絶滅のおそれのある野生生物－。愛媛県県民環境部  
環境局自然保護課，松山。

多田恭子・岩本直哉・井上卓彦・天野敦子・川口優美・  
齋藤笑子・布川裕也・井内美郎. 2004. 徳島県東部，  
板野町のジョガマル池湖底堆積物からみた過去約  
1000年間の環境変遷史. 日本地質学会学術大会講

演要旨 111：305.

徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会（編），  
2001. 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物，－徳  
島県版レッドデータブック－. 徳島県環境生活部環  
境政策課，徳島.